

理由が不明

1. ヤマガラ

打吹山で観察できるカラ類5種の中で、年間を通してみられるのはヤマガラとシジュウカラです。この時期は鳴き声を聞かなくても存在がわかります。コンコンコン、コンコンコンと、軽くりズミカルにものを叩く音がある場所を示します。

繁殖期は虫を食べ、秋になると木の実をよく食べるようになります。シキミの茶色の実が大好きですが、打吹山にはありません。墓地等に植えられたシキミにヤマガラがやってきて、落ちた実を拾って食べます。次いで、エゴノキの実(倉吉ではツナイと呼ぶ)に集まります。長径が約1cmの大型の堅果ですから、割るのが大変なのかもしれません。また、エゴノキは2次林の木ですので、展望台周辺や開けた場所に生育していて、打吹山には多くありません。



地面に落下している実を見つけては嘴でくわえ、近くの横に出た枝に止まり、両脚の間に実をはさんで頭とともに嘴を打ち付けます。穴を開けて中の部分を食べるのですが、脚を叩かないのが凄いです。このような堅果を食べる競争者は少なく、シキミやエゴノキは全体が有毒ですので、解毒のしくみを持っているのです。

打吹山に多いシイの実は無毒で栄養価も高い堅果ですが、ヤマガラが利用するのは秋が深まった積雪前や春先です。落下後しばらく放置し、実に付く虫(シイシギゾウムシの幼虫)も脱出してしまった遅い時期に食べるのには理由があるのでしょう。

2. シロダモ

タブノキに似ていて葉裏が白く、「白いタブ」と名を付けられたクスノキの仲間です。タブノキほど大きくなりません。葉をちぎって匂いを嗅ぐと、クスノキほど強くはないものの樟脳の匂いがします。



雌雄異株で、この時期雌木には実が見られます。クスノキの仲間の大部分は実が黒いの



ですが、シロダモはなぜか赤色です。変わっているのは色だけでなく、開花時期も11月で、実が赤く熟すのは翌年の秋になることです。したがって、赤い実と黄色い花が同時に見られることとなります。長い時間をかけて実を成長させるのは、樹冠に出ることができないため、必要なエネルギーを得ることができないからでしょうか。写真のように、日当りの具合によって結実数も大きく異なっています。

この実にはロウが含まれていて、ロウソクに利用されたとのことですが、栽培はされていません。ハゼは大量の実が入手できる上にロウの質もよいことから栽培され、ハゼ蠟を使用した和ロウソクが作られています。